

実施日：11月4日（5校時）	
領域：教科（音楽）	
取組名：音楽会を成功させよう	
対象：3年4組	実施場所：音楽室
ア ねらい 集団の中で、相手を認め、協力して自分の役割を果たす。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 音楽会を成功させるため、しっかりとした目標を持たせ、パートリーダーを中心に意欲的に取り組ませた。録音した他のクラスの歌声を聞かせるなど、意欲を高める工夫もした。音楽会で金賞をみざすだけでなく、聴く人に幸せを感じてもらえるように、幸せのおすそわけができるような歌をみざすことが、相手を思いやるやさしい気持ちにつながることで指導した。 導入 発声をかねて「COSMOS」を歌い、歌う雰囲気をつくる。 展開 「君と歩こう」のCDを聴く。 パート練習をする。 終末 合唱をする。	
ウ 連携先：地域の方、保護者	
エ 連携にむけての取組 地域の方に学校の様子を知っていただき、連携して学校教育を進めていくために、オープンスクールとして、授業を公開した。案内状を地域の自治会や青少年育成委員会など広く配布し、多くの参加を呼びかけた。相手を認め、協力して自分の役割を果たすことが、音楽会を成功させることにつながるという意識を持たせた学活での話し合い活動や音楽の授業を中心に公開した。その意識で取り組んでいる普段の授業を参観してもらったことは、生徒の意識を高め地域の方との連携を深めることとなった。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 音楽会を音楽的行事としてではなく、人権意識を高めるための総合的な活動として、全職員が共通認識し取り組むとともに、保護者や地域の方々にもその意識で取り組んでいることを伝えた。この音楽会は、聴いてもらえることに感謝し、聴く人に幸せを感じてもらえる音楽をみざすことを合い言葉に取り組みを進めた。学級担任はクラスの取り組みを常に評価し、話し合い（終わりの会など）を持つことで、クラスの歌から、学年全体の音楽へとつなげていった。生徒自身は、学年委員会での話し合いや反省行いながら取り組み、音楽会の成功に大きな影響を与えた。また、学年委員会からの提案で有志を募り、昼休みを利用し、学年全体として練習を行うなど、音楽会への意欲は高まった。	
カ 評価の方法 ・ 生徒の感想・生活ノート・学級通信・学年通信 [別紙⑥] ・ 合唱コンクール、文化祭での発表 ・ 地域、保護者へのアンケート	
キ 成果 地域の方の暖かい見守りのもと、クラスや学年で約束したことを守り、協力して一生懸命取り組んだことで、相手を認め、相手を大切する思いやりの心が育ってきたものと思われる。	
ク 課題 思いやりの心や、やさしい心の持てる生徒を育成するためには、行事を一生懸命取り組ませることも必要だが、ただ単に行事をこなすだけではその効果は薄い。「何のために行うのか」、「自分は何ができるのか、自分のクラスは何ができるのか」などの意識づけがあれば、効果はさらに大きくなるものと思われる。生徒が達成感を味わえるよう行事を計画していくことが必要である。さらに、その取組が学校の中だけでなく地域の中で生かされるよう手立てを考える必要がある。	